

「献身」 ～全てを捨てて～

マルコ10：17～31

出エジプトした民が荒野で40年もの間、過ごしました。最初は300万人とも言われていた民は40年を経て少なくなっていました。そして約束の乳と蜜の流れる地であるカナンに入国する時、ヨルダン川を渡りました。彼らは40年の荒野での生活の中で何を学んできたのでしょうか。それは己に死ぬ事(捨てる事)を学んでいました。出エジプトした民は約束の地に入っても神に従い続けていくために、荒野で自分に死ぬことを学びました。私たちも同じです。神に従い続けるには自分の中に形成されてしまった偏った自分を捨てることが大切です。しかし、私たちは捨てるべきものが捨てられず、捨ててはならないものを捨ててしまっています。今日はこの捨てることについて見ていきたいと思います。私たちは「献身」という言葉を聞くとドキッとします。それは捨てるべきものが捨てられていないためです。(マタイ10：17～31)ここでは金持ちとイエスとの会話の後、ペテロの事が書かれています。ペテロは全てを捨てて従っていったと告白しています。イエスもそのことを認めています。しかしペテロは十字架を前にして3度も裏切ることになりました。ペテロは「恐れ」を捨てる事ができていませんでした。ペテロは復活したイエスと会うことによって、「恐れ」がなくなり使徒の働きに書かれているように、どんな困難に合っても主に従い続けることができました。同じように主は私たちを用いようとしています。しかし私たちに捨てられないものがあると用いることができません。ですから私たちがまだ捨てられていないことに気づかなければなりません。金持ちは十戒は全て守っていると告白し、イエスもそのことについては認めています。ただ1つだけ欠けたところがあり、金持ちがもっていたお金について施すように言われています。しかし金持ちはイエスに答える事ができず、イエスの元から去って行ってしまいます。私たちはこのように捨てるべきものが分かっているのでしょうか。私たちは自分の捨てるべきところは自分で気づかなくてははいけません。人から言われた時、素直に受け入れられて悔い改める事ができるでしょうか。敵は私たちが主の前から離れてしまうように、環境にも働いたりして誘惑してきます。私たちは捨てることに気づいたのであれば、その時が捨てる時です。私たちが神の召しに応えるために**①捨てられないものを捨てましょう。**(ヘブル12：1～3)イエスキリストこそ、自らを捨てた人です。神であることを捨てて人なり、私たちすべての人のために十字架の道を通られました。自らを捨てた歩みとはこのような歩みです。私たちの心を紙に例えると、紙はどんな紙になっているのでしょうか。何か、汚れていたり、傷やシミがないのでしょうか。私たちは自らで清くすることはできません。十字架で流されたイエスの血潮により、私たちの心はきれいになります。雪よりも白くなると聖書には書かれています。私たちは心が汚れていたり、破れているようでは神についていく事ができません。まずは自分の心を整えていきましょう。そして自分自身でここまで制限しているような部分があるのであれば、捨てていきましょう。私たちは私たち自身を自分のものと思っているから制限をするようになります。しかし私たちは主に買い取られたものであることを忘れてはいけません。捨てるべきものを見極め捨てていきましょう。神の召しに応えるために**②いつも元気で疲れてはならない。**元気とは気の元すなわち、私たちの霊的な部分を意味しています。私たちには使命があります。イエスから目を離してはならない理由として心が元気であるためなのです。私たちは何のために生きているのか、何のためにその行動をしているのか、その使命を原動力としなければなりません。使命に立って行動するのであれば、疲れません。私たちに元気がなくなり、疲れていると思えるとき、それは心が病んでいるようです。私たちはいつも「元に戻り」元気であるようにしましょう。霊>魂>肉という優先順位を失っていると元気がなくなります。バランスを崩すことなく、元気でいきましょう。神の召しに応えるために**③愛を捨てるな**(Iコリ13：1～8)私たちに捨ててはならないものは神の愛です。この聖書箇所には愛について分かりやすくかみ砕き説明してくれています。私たちの行動が愛に基く行動となっているのでしょうか。それとも愛に反する行動でしょうか。愛の反対は無関心です。周りに対して他人事になっているのであれば、注意が必要です。私たちは福音を聞いたものとしての責任があります。自らの行動によって躓きの石となってしまった事があれば、悔い改めていく必要があります。私たちに狭い門から入る事を教える責任があります。私たちが言葉や口先だけで愛することをせず、行いと真実を持って愛する事をしていきましょう。今日、私たちが何を捨てるように言われているのでしょうか。そして何を捨ててはならないと言っているのでしょうか。心が元気であるために、もう一度自らの使命を振り返り、歩んでいきましょう。そして自分は献身者である事を決意し、神の愛を現していきましょう。(要約者:平澤一浩)